資治通鑑 第 113 巻

令和 3 年 12 月 26 日

【晉紀三十五】　起昭陽單閼，盡閼逢執徐，凡二年。

■東晋、●北魏、▲後燕、続国訳漢文大成．経子史部 第 7 巻 073p

安皇帝戊元興二年（癸卯，４０３年）

■［盧循は東陽を寇す］春，正月，**盧循**は司馬の**徐道覆**をして東陽を寇せ使む。二月，辛丑（８日），建武將軍の**劉裕**は之を撃破す。**道覆**は，**循**之姊夫也。乙卯（２２日），太尉の**玄**を以て大將軍（漢より以来職名は崇重、その位に居る者はみな朝權を縦にする。晉初は大尉の下に置くも後三司の上に戻す）と為す。丁巳（２４日），**玄**は冀州刺史の**孫無終**を殺す。

■**玄**は上表して諸軍を帥いて關、洛を掃平せんと請い，既に而して朝廷に諷し下詔は許さず，乃ち云う、「詔を奉ず、故に止む。」

玄は初めて飭裝（出発用意）せんと欲し，先ず輕舸を作り，服玩、書畫を載せるを命じる。或は其の故を問い，**玄**は曰く、

「兵は凶にして戰いは危なし，脫して意外有れば，當に輕くして而して運び易から使むべし。」（胡三省曰く、桓玄の意態は終始此の如きのみ。時の人は誤りて以て雄豪と為し、これを憚る。故に遭う毎にすなわち敗る。崢嶸州の戰い、劉道規等、其の人と為りを知り而して逕にこれを突く。一たび敗れて復た振う能わず）

衆は皆な之を笑う。**(7-074p)**

■夏，四月，癸巳（１日）朔，日に之れ食有り。

【南燕の治世】

南燕［南燕の慕容備徳は母兄の凶問を得る］南燕主の**備德**は故吏の**趙融**が長安より來たり，始めて母兄の凶問を得，**備德**は號慟して吐血し，因りて而して疾に寢る。

南燕［慕容達の反乱鎮圧］司隸校尉の**慕容達**は反を謀り，牙門の**皇璆**を遣わして衆を帥いて端門を攻め，殿中帥（晉の殿中三都督の如し）侯の**赤眉**は開門して之に應ず。中黃門の**孫進**は**備德**を扶けて城を逾えて進捨に匿す。**段宏**等は宮中に變有るを聞き，兵を勒して（廣固城の）四門に屯す。**備德**は宮に入り，**赤眉**等を誅し。**達**は出でて魏に奔る。

南燕［廕戸の処理］**備德**は遷徙之民を優にし，之をして長く復（徭役免除）して役せざら使む。民は此に緣いて送いに相い廕冒（覆い隠す）し，或は百室戸を合し，或は千丁籍を共にし，以て課役を避ける。尚書の**韓**［言卓］（一文字）は隱核（続は覈、実態把握）を加えんと欲し，**備德**は之に從い，［言卓］（一文字）をして郡縣を巡行せ使め，廕れる戸五萬八千を得る。

南燕［山賊の王始の自負］泰の山賊の**王始**は衆數萬を聚め，自ら**太平皇帝**を稱し，公卿を署置す。南燕の桂林王の**鎮**は討ちて之を禽とす。刑に臨み，或は其の父及び兄弟の安くに在るかを問い，**始**は曰く、

「太上皇（父）は外に蒙塵し，征東、征西（兄弟）は亂兵の害する所と為る。」

其の妻は之に怒りて曰く、

「君は正に此に坐し口は，奈何ぞ尚ほ爾るや！」

始は曰く、

「**皇后**は知らず，古より豈に亡びざる之國有り！**朕**は則ち崩ず矣，終に號を改めず！」

▲［燕王の熙は龍騰苑を造営］五月，燕王の**熙**は龍騰苑を作り，方は十餘里，役徒は二萬人。景雲山を苑内に築き，基の廣さは五百歩，峰の高さは十七丈なり。（慕容熙が苻氏二姉妹の為に造営、。小林惠子は苻洛=応神の贈る倭の美人とし、琵琶湖と比叡山を模したとする）

●秋，七月，戊子（２７日），魏主の**珪**は北巡し，離宮を豺山に作る。

●［和跋の誅殺と毘の逃亡］平原太守の**和跋**は奢豪にして名を喜ぶ。**珪**は惡んで而して之を殺す，其の弟の**毘**等をして就きて與に訣せ使む。**跋**は曰く、

「灤北は土瘠（や）せ，水南に遷る可し，勉めて生計を為せ。」

且つ之をして己に背（そむ）か使めて，曰く、

「汝は何を吾之死を視るに忍びん也！」

毘等は其の意を諭り，詐りて使者と稱して，逃げて秦に入る。**珪**は怒り，其の家を滅ぼす。中壘將軍の**鄧淵**の從弟の尚書の**暉**は**跋**と善し，或は諸（これ）を譖（そし）りて**珪**に曰く、

「**毘**之出でて亡げるは，**暉**は實に之を送る。」

珪は**淵**が其の謀を知るを疑い，**淵**に死を賜わる。

【後涼は後秦に併合され滅びる】

南涼 後涼 北涼 後秦［傉檀・沮渠蒙遜に攻められた呂隆は後秦に救援を求め、後涼滅亡］南涼王の**傉檀**及び**沮渠蒙遜**は互いに出兵して**呂隆**を攻め，**隆**は之を患う。秦之謀臣は秦王の**興**に言って曰く、

「**隆**は先世之資に藉（よ）り，河外に專制し，今は饑窘（きぎん）と雖も，尚ほ能く自ら支える。若し將來豐贍（ほうせん）すれば，終に吾が有と為らず。涼州は險絕し，土田は饒沃にして，其の危に因りて而して之を取るに如かず。」

興は乃ち遣使して**呂超**を征（続は徴）して入りて侍せしむ。**隆**は念（おも）うに姑臧は終に以て自ら存す無く，乃ち**超**に因りて迎えんことを秦に請う。**興**は尚書左僕射の**齊難**、鎮西將軍の**姚詰**、左王の**乞伏乾歸**、鎮遠將軍の**趙曜**を遣わして歩騎四萬を帥いて**隆**を河西に迎える。**(7-075p)** 南涼王の**傉檀**は昌松、魏安の二戍を攝（おさ）（収）めて以て之に避ける。

南涼 後涼 北涼 後秦［後秦は涼諸国の盟主となる］八月，**齊難**等は姑臧に至り，**隆**は素車白馬にて道旁に於いて迎える。（呂光より 13 年で滅ぶ）**隆**は**難**に**沮渠蒙遜**を擊つを勸め，**蒙遜**は**臧莫孩**をして之を拒ま使め，其の前軍を敗る。**難**は乃ち**蒙遜**と結盟し，**蒙遜**は弟の**挐**を遣わして秦に入貢せしむ。**難**は司馬の**王尚**を以て涼州刺史に行かしめ，兵三千を配して姑臧に鎮ぜしめ，將軍の**閻松**を以て倉松（甘粛省甘涼道古浪県、現・武威市古浪県）太守と為し，**郭將**を番禾太守と為し，分けて二城に戍せしめ，**隆**の宗族、僚屬及び民萬戶を長安に徙す。**興**は**隆**を以て散騎常侍と為し，**超**を安定太守と為し，自餘の文武を才に隨いて擢敘す。初め，**郭黁**は常に言く、

「**呂**に代る者は王なり」，

故に其の兵を起こすや，先ず**王詳**を推し（109 巻元年にあり），後に**王乞基**を推す。**隆**の東遷に及び，**王尚**は卒（つい）に之に代わる。**黁**は**乞伏乾歸**に從いて秦に降り，以（おも）えらく、

「秦を滅ぼす者は晉也」

と，遂に來奔し，秦人は追い得て，之を殺す。

北涼［蒙遜は二伯父を殺す］**沮渠蒙遜**の伯父の中田護軍（呂光が置く、臨松に治す）の**親信**、臨松太守の**孔篤**は，皆な驕恣にして民の患いと為り，**蒙遜**は曰く、

「吾の法を亂す者は，二伯父也。」
皆な之に逼りて自殺せ使む。
北涼［蒙遜の去就］秦は使者の**梁構**を遣わして張掖に至り，**蒙遜**は問いて曰く、
「**禿髪傉檀**は公と為り而して身は侯と為る，何んぞ也？」（後秦は傉檀を廣武公、蒙遜を西海侯とするは前巻前年にあり）
構は曰く、
「**傉檀**は凶狡（凶悪狡猾）にして，款誠は未だ著われず，故に朝廷は重爵虚名を以て之を羈縻す。将軍は忠にして白日を貫き，當に入りて帝室を贊える，豈に不信を以て相い待つ可けん也！聖朝の爵は必ず功を稱し，**尹緯**、**姚晃**の如きは，佐命之臣，**齊難**、**徐洛**は，一時の猛將，爵は皆な侯伯に過ぎず，将軍は何を以て之に先んずる乎！昔**竇融**は殷勤にして固く讓り，舊臣之右に居るを欲せず（42 巻漢光武帝建武 12 年にあり），将軍が忽ち此の問い有るを意わずや！」
蒙遜は曰く、
「朝廷は何ぞ即ち張掖を封ぜず而して更に遠く西海を封じる邪？」
構は曰く、
「張掖は，将軍が已に自ら之を有し，遠く西海を授ける所以の者は，将軍之國を廣大にせんと欲する耳。」
蒙遜は悦び，乃ち命を受ける。

【桓玄の王位簒奪と劉裕の動き】

■［荊州刺史に桓修］荊州刺史の**桓偉**は卒し，大将軍の**玄**は**桓修**を以て之に代える。従事中郎の**曹靖之**は**玄**に說いて曰く、
「**謙**、**修**の兄弟は内外に專據し，權勢は太いに重し。」
玄は乃ち南郡相の**桓石康**を以て荊州刺史と為す。**石康**は，**豁**（桓温の次弟）之子也。
■［劉裕は盧循の討伐］**劉裕**は**盧循**を永嘉に破り，追いて晉安（福建省厦門道晉江県、現・泉州市晋江市、晋の南遷後名士集まり、晋を安じるから命名）に至り，屢々之を破り，**循**は海に浮かんで南に走る。
■［何無忌は劉裕の起兵を勧める］**何無忌**は潛かに**裕**に詣り，**裕**が山陰に於いて兵を起こして**桓玄**を討つを勸める。**裕**は土豪の**孔靖**に謀り，**靖**は曰く、
「山陰は都を去ること道は遠く，事を舉げるに成り難し。且つ**玄**は未だ位を簒ぜず，其の已に簒ずを待つに如かず，京口に於いて之を圖らん。」
裕は之に從う，**靖**は，**愉**（元・明・成の三帝に歴事す）之孫也。**(7-076p)**
●九月，魏主の**珪**は南平城（山西省雁門道山陰県、現・朔州市山陰県）に如く，灤南（灤水=桑乾河より南に夏屋山に至る）を規度し，將に新都を建てんとす。
■［桓玄は着々簒奪の準備］侍中の**殷仲文**、散騎常侍の**卞范之**は大将軍の**玄**に早く禪を受けるを勸め，陰かに九錫の文及び冊命を撰ず。**桓謙**を以て侍中、開府と為し、尚書事を錄せしめ，**王謐**を中書監と為し、司徒を領せしめ，**桓胤**を中書令と為し，**桓修**に撫軍大将軍を加える。**胤**は，**沖**之孫也。丙子（１６日），**玄**に冊命して相國と為し，百揆を總ぜしめ，十郡を封じ，楚王と為し，九錫を加え，楚國は丞相以下の官を置く。
■［桓謙は劉裕の意向を偵察、劉裕は欺く］**桓謙**は私に彭城内史の**劉裕**に問いて曰く、
「**楚王**の勳德は隆重なり，朝廷之情は，鹹な宜しく揖讓有りを謂う，卿は以て何如と為すや？」

裕は曰く、

「**楚王**は，**宣武**（桓温の諡）之子，勳德は世を蓋(おお)う。晉室は微弱にして，民望は久しく移り，運に乘りて禪代わるとも，何の不可あるや？」

謙は喜んで曰く、（桓謙は一世の雄である劉裕に問いて可否を決す、劉裕は詭辭を以て其の意に従う）

「卿は之れを可と謂えば即ち可なる耳。」

■［新野の庾仄の反乱］新野の人の**庾仄**(ゆそく)は，**殷仲堪**之黨也，**桓偉**の死して，**石康**の未だ至らざるを聞き，乃ち兵を起こして雍州刺史の**馮該**を襄陽に襲い，之を走らす。**仄**は衆七千有り，壇を設け，七廟を祭り，**桓玄**を討たんと欲するを雲い，江陵は震動す。**石康**は州に至り，兵を發して襄陽を攻め，**仄**は敗れ，秦に奔る。

南燕［南燕は桓玄討伐より中原制覇を優先］**高雅之**は南燕主の**備德**に表して**桓玄**を伐つを請いて曰く、

「縗(たと)え未だ能く吳、會を廓清せずとも，亦た江北之地を收める可し。」

中書侍郎の**韓范**は亦た上疏して曰く、

「今晉室は衰亂し，江、淮の南北，戶口は幾つも無く，戎馬は單弱なり。重ねるに**桓玄**の悖逆を以て，上下は離心す。**陛下**の神武を以て，步騎一萬を發して之に臨めば，彼は必ず土崩れ瓦解し，兵は行を留めざらん矣。得て而して之を有(たも)てば，秦、魏は敵とするに足らざる也。地を拓(ひら)き功を定めるは，正に今日に在り。時を失えば取れず，彼之豪傑が**桓玄**を誅滅し，更に德政を修め，豈に惟だ建康も得る可からず，江北も亦た望むべくも無し矣。」

備德は曰く、

「**朕**は舊邦の覆沒を以て，先ず中原を定め，乃ち荊、揚を平蕩せんと欲し，故に未だ南に征せざる耳。其れ公卿を駐して之を議さん。」

因りて城西に講武し，步卒三十七萬人，騎は五萬三千匹，車は萬七千乘。公卿は皆な以て為すに、

「**玄**は新たに志を得，未だ圖る可からず」，

乃ち止む。

■［桓玄は隱士を呼ぶなど必死の工作］冬，十月，楚王の**玄**は上表して歸籓を請い，**帝**をして手ずから詔を作りて固く之を留ま使む。又た詐りて言う、

「錢塘の臨平湖（常に水草が覆う、開くときは天下太平との言い傳え）は開き，江州に甘露は降る」

と，百僚をして集まり賀せ使め，用いて己が受命之符と為す。又た前世皆な隱士有りを以て，己の時は獨り無きを恥じ，西朝（西晉時代）の隱士の安定の**皇甫謐**（魏晉時代に徵せられるも受けず、玄晏先生と号す）の六世の孫の**希之**を求め得，其の資用を給し，山林に隱居せ使む。征（続は徵）して著作郎と為し，**希之**は固く辭して就かざら使め，然る後に下詔して旌禮し，號して高士と曰う。時の人は之を謂いて、

「充隱(ういん)。」（実は隱士でないのに、数に入れて充当するの意味）

とす。**(7-077p)**又た錢を廢して穀、帛を用い及び肉刑を復せんと欲し，製作は紛紜(ふんうん)として，志は一定無く，變更回復して，卒に施行する所無し。性は復た貪鄙，人士は法書（故人の真跡、家法あるもの）、好畫及び佳き園宅有れば，必らず蒲博を假りて而して之を取る。尤も珠玉を愛し，未だ嘗て手を離さず。

●［拓跋嗣を後継者とする］乙卯（２６日），魏主の**珪**は其の子の**嗣**を立てて齊王と為し，相國を加位す。**紹**を清河王と為し，征南大將軍を加える。**熙**を陽平王と為し、**曜**を河南王と為す。丁巳（２８日），魏の將軍の**伊謂**は騎二萬を帥いて高車の餘種の**袁紇**、**烏頻**を襲う。十一月，庚午（１１日），大いに之を破る。

【桓玄即位も治まらず】

■［楚の桓玄の即位］詔して楚王の**玄**に**天子**の禮樂を行い，妃を**王后**と為し，世子を**太子**と為す。丁丑（１８日），**卞范之**は禪詔を為(つく)り，臨川王の**寶**をして**帝**に逼りて之を書か使む。**寶**は，**晞**（桓温の廃立の時に死す）之曾孫也。庚辰（２１日），**帝**は軒に臨み，兼太保、領司徒の**王謐**を遣わして璽綬を奉ぜしめ，楚に位を禪る。壬午（２３日），**帝**は出でて永安宮に居る。癸未（２４日），太慶（続は廟）の神主を琅邪國（永嘉の乱に琅邪國の人元帝に従いて江を過ぎる者千餘家、太興二年懐徳県を丹陽に立て、琅邪相あるも地は無し。成帝咸康元年に桓温が琅邪太守を領し、江乗の蒲州金城にに鎮し、江乗県の境を割きて郡を立て始めて実土あり。江蘇省金陵道句容県、現・南京市江寧区）に遷し，穆章の**何皇后**及び琅邪王の**德文**は皆な徙して司徒府に居る。百官は姑孰に詣りて勸進す。十二月，庚寅（１日）朔，**玄**は九井山（安徽省蕪湖道當塗県、現・馬鞍山市当塗県）の北に壇を築き，壬辰（３日），**皇帝**に即位す。冊文は多く晉室に溥非ず，或は之を諫め，**玄**は曰く、

「揖讓之文は，正（続は止(ただ)）に之を下民に陳ず可き耳，豈に**上帝**を欺く可けん乎！」

大赦し，改元して永始とす。南康之平固縣（江西省贛南道贛(かん)県、現・贛州市贛県区、興國縣との間）を以て**帝**を封じて平固王と為し，**何后**を降して零陵縣君と為し，琅邪王の**德文**を石陽縣公と為し，武陵王の**遵**を彭澤縣候と為す。父の**温**を追尊して**宣武皇帝**と為し，廟號を**太祖**とし，**南康公主**を**宣皇后**と為し，子の**昇**を封じて豫章王と為す。會稽内史の**王愉**を以て尚書僕射と為し，**愉**の子の相國左長史の**綏**を中書令と為す。**綏**は，**桓氏**之甥也。戊戌（９日），**玄**は建康宮に入り，御坐に登り，而して床は忽(たちま)ち陥(お)ち，群下は色を失う。**殷仲文**は曰く、

「將に聖德の深く厚きに由り，地は載せる能わず。」

玄は大いに悦ぶ。梁王の**珍之**の國臣の**孔樸**は**珍之**を奉じて壽陽に奔る。**珍之**は，**晞**（晞の子が出て梁国を継ぐ、珍之の祖）之曾孫也。

▲［燕王の熙は苻貴嬪を皇后］戊申（１９日），燕王の**熙**は燕主の**垂**之貴嬪の**段氏**を尊して**皇太后**と為す。**段氏**は，**熙**之慈母（父の妾で父の命による養母）也。己酉（２０日），**苻貴嬪**を立てて**皇后**と為し，大赦す。

■辛亥（２２日），**桓玄**は**帝**を尋陽（郡、縈桑に治す）に遷す。

▲［後燕の青州刺史・并州刺史］燕は衛尉の**悦真**を以て青州刺史と為し，新城（奉天省遼瀋道錦県、現・錦州市凌海市）に鎮せしむ。光大夫の**衛駒**を并州刺史と為し，凡城（熱河道平泉県、現・河北省承德市平泉市）に鎮せしむ。

■癸丑（２４日），**桓溫**の神主を太廟に納める。**桓玄**は聽訟觀に臨み囚徒を閲し，罪は輕重と無く，(7-078p) 多く原放（赦免）を得る。輿を干(おか)して乞う者有れば，時に或は之を恤（続は卹(/hè)）む。其の好行小惠を行うを好むこと此くの如し。（法で治めず、気分で治める）

●是の歳，魏主の**珪**は始めて有司に命じて冠服を制せしめ，品秩を以て差を為す。然れども法度は草創にして，多くは古を稽(かんが)えず。

安皇帝戊元興三年（甲辰，４０４年）

■［先祖の七廟を立てず］春，正月，**桓玄**は其の妻の**劉氏**を立てて**皇后**と為す。**劉氏**は，**喬**之曾孫也。**玄**は其の祖禰(そい)以上は名位の顯われざるを以て，復た追尊して廟を立てず。散騎常侍の**徐廣**は曰く、

「其の父を敬して則ち子は悦ぶ，故事に依りて七廟を立てんを請う。」

玄は曰く、

「禮に，**太祖**は東向し，左は昭右は穆。晉は七廟を立てるに，**宣帝**は東向之位を正すを得ず，何ぞ法とするに足る也！」（禮に、天子は七廟あり、太祖は東向の位を正しうし、三昭を左西、三穆を右にすと）

秘書監の**卞承之**は**廣**に謂って曰く、

「若し宗廟之祭果たして祖に及ばざれば，以て楚の徳之長からざるを知る有り矣。」

廣は，**邈**之弟也。

■［玄は一々自分で細かく一字一句こだわり、政治進まず］**玄**は自ら即位するも，心は常に自ら安ぜず。二月，己丑（１日）朔，夜，濤水が石頭に入り，流れて人を殺すこと甚だ多く，歓嘩は天を震わす。**玄**は之を聞き，懼れ，曰く、

「奴輩が作れり矣！」

玄は性は苛細にして，好んで自ら矜伐す。主者は事を奏するに，或いは一字體せず（文字の釣り合いが良くない），或いは片辭之謬（誤り），必ず糾摘（糾弾修正）を加え，以て聰明を示す。尚書は答詔し「春蒐」を誤りて「春菟」と為して書けば，左丞王の**納之**より以下，凡そ闕署（連署）する所は，皆な降黜を被る。或は手ずから直官（入直者）を注し，或は自ら令史（尚書令僕の署用する所）を用い，詔令は紛紜として，有司は奉答する暇あらず，而して紀綱は治まらず，奏案は停まり積み，知る能わざる也。又た性は游畋を好み，或は一日に數々出ず。遷りて東宮に居り，更に宮室を繕い，土木は並び興り，督迫は嚴に促し，朝野は騒然とし，亂を思う者は衆し。

■［益州刺史の毛璩は玄の命を受けず、白帝に出兵］**玄**は遣使して益州刺史の**毛璩**に散騎常侍、左將軍を加える。**璩**は**玄**の使いを執り留め，其の命を受けず。**璩**は，**寶**之孫也。**玄**は**桓希**を以て梁州刺史と為し，諸將に分命して三巴（巴都・巴東・巴西）に戍せしめ以て之に備える。**璩**は檄を遠近に傳え，**玄**の罪状を列べ，巴東太守の**柳約之**、建平太守の**羅述**、征虜司馬の**甄季之**を遣わして**希**等を撃破し，仍ち衆を帥いて進みて白帝に屯す。

■［玄は劉裕を中原平定の人材として優遇］**劉裕**は徐、兗二州刺史，安成王の**桓修**に従いて入朝す。**玄**は**王謐**に謂って曰く、

「**裕**の風骨は常ならず，蓋し人傑也。」

游集する毎に，必ず引接し殷勤にして，贈り賜わるは甚だ厚し。**玄**の后の**劉氏**は，智鑒有り，**玄**に謂って曰く、

「**劉裕**は龍行虎歩し，視瞻は凡ならず，終に人の下と為らざるを恐れる，早く之を除くに如かず。」

玄は曰く、

「我は方に中原を平蕩せんとし，**裕**に非ざれば用う可き者は莫し。關、河の平定を俟ち，然る後に別に之を議さん耳。」

玄は**桓弘**を以て青州刺史と為し，廣陵に鎮ぜしむ。**刁逵**を豫州刺史と為し，歴陽に鎮ぜしむ。**弘は，修**之弟、**逵**は，**彝**（103 巻簡文帝咸安二年にあり）之子也。（7-079p）

【劉裕の京口決起】

■［劉裕は何無忌、劉毅と密謀す］**劉裕**は**何無忌**と同舟して京口に還り，密かに晉室の興復を謀る。**劉邁**の弟の**毅**の家は京口にあり，亦た**無忌**と**玄**を討つを謀る。**無忌**は曰く、

「**桓氏**は強盛にして，其の圖る可きや乎？」

毅は曰く、

「天下は自ら強弱有り，苟くも道を失うを為せば，強きと雖も弱くなり易く，正に事主の得難きを患える耳。」（大事を為すには主と為すべき人は得がたい）

無忌は曰く、

「天下の草澤之中には英雄は無きに非ざる也。」

毅は曰く、

「見る所唯だ**劉下邳**（劉裕は先に下邳太守）有り。」

無忌は笑いて而して答えず，還りて以て**裕**に告げ，遂に**毅**と謀を定める。

■［王叡・王懿の見識］初め，太原王の**元德**（王叡の字、宣帝の諱を犯す）及び弟の**仲德**（王懿の字、元帝の諱を犯す、燕に破られ河を渡り段遼に依り、遼の所より来奔）は**苻氏**の為に兵を起こして燕主の**垂**を攻め，克たず，來奔して，朝廷は**元德**を以て弘農太守と為す。**仲德**は**桓玄**の帝を稱するを見，人に謂って曰く、

「古より革命は誠に一族に非ず，然るに今之起る者は恐らくは以て大事を成すに足らざらん。」

■［京口で英雄立つか］平昌の**孟昶**は青州の主簿と為り，**桓弘**（青州刺史）は**昶**をして建康に至ら使め，**玄**は見えて而して之を悦び，**劉邁**（徐州の澎城の沛の人）に謂って曰く、

「素士（白屋に起こる者）の中に一の尚書郎を得たり，卿は其の州裡（ともに京口に居る、同州裡という）を與にす，寧ろ相い識るや否や？」

邁は素より**昶**と善からず，對えて曰く、

「臣は京口に在り，**昶**の異能有るを聞かず，唯だ父子の紛紛として更に相い詩を贈るを聞く耳（のみ）。」

玄は笑いて而して止む。**昶**は聞きて而して之を恨み，既に京口に還り，**裕**は**昶**に謂って曰く、

「草間には當に英雄起つに有るべし，卿は頗る聞く乎？」

昶は曰く、

「今日英雄は誰有るや，正に當に是れ卿耳（のみ）！」

■［一斉蜂起計画］是に於いて**裕**、**毅**、**無忌**、**元德**、**仲德**、**昶**及び**裕**の弟の**道規**、任城の**魏詠之**、高平の**檀憑之**、琅邪の**諸葛長民**、河内太守の隨西の**辛扈興**、振威將軍の東莞の**童厚之**，相い與に兵を起こすを合い謀る。**道規**は**桓弘**の中兵參軍為（た）り，**裕**は**毅**をして**道規**及び**昶**に江北に就き，共に**弘**を殺し，廣陵に據ら使む。**長民**は**刁逵**の參軍為（た）り，**長民**をして**逵**を殺し，歷陽に據ら使む。**元德**、**扈興**、**厚之**は建康に在り，之をして衆を聚めて**玄**を攻めて内應為さ使む。期を刻して（一）齊に發せんとす。

■［孟昶の妻の周氏の内助の功］**孟昶**の妻の**周氏**は財に富み，**昶**は之に謂って曰く、

「**劉邁**は我を**桓公**に毀（そし）り，我をして一生滄（続は淪）陷せ使む，我は當に賊を作（な）さんと決す。卿は幸いに早く離絶せよ，脱して富貴を得れば，相い迎えんも晩（おそ）からざる也。」

周氏は曰く、

「君の父母は堂に在るに，非常之謀を建てんと欲す，豈に婦人の能く諫める所なるや！事之成らざれば，當に奚（官婢）官の中に於いて大家（姑）を奉養すべし（官婢になっても姑を養う決意），義は志に歸す無き也。」

昶は悵然（続は愴然、心を失う状況）として之れ久しく而して起つ。**周氏**は**昶**を追いて坐して，曰く、

「君の舉措を觀れば，謀（はかりごと）の婦人に及ぶ者に非ず，財物を得んと欲するに過ぎざらん耳。」

因りて懷中の兒を指して之に示して曰く、

「此の兒は賣る可きも，亦た當に惜しまず。」**(7-080p)**

遂に貲を傾けて以て之を給す。**昶**の弟の**顗**の妻は，**周氏**之從妹也，**周氏**は之に紿（あざむ）きて曰く、

「昨夜夢は殊に祥ならず，門内の絳（いう）色の物を宜しく悉く取りて以て厭勝（まじない）を為すべし。」

妹は信じて而して之に與える，遂に盡く縫いて以て軍士の袍と為す。

■［何無忌の母は劉裕との蜂起を勧める］**何無忌**は夜屏風裡に於いて檄文を草し，其の母は，**劉牢之**の姊也，榆（続は橙、床）に登りて密かに之を窺い，泣いて曰く、

「吾は東海の**呂母**（38 巻王莽天鳳４年にある）の明に及ばず矣。汝（なん）ぞ能く此くの如く，吾は復た何を恨むや！」

與に同じく謀る所の者を問う，曰く、

「**劉裕**なり。」

母は尤も喜び，因りて為に**玄**は必ず敗れ，事を舉げれば必ず成る之理を言い以て之を勸める。

■［京口にて劉裕は挙兵］乙卯（２７日），**裕**は托するに遊獵を以てし，**無忌**と徒衆を收合し，百餘人を得る。丙辰（２８日），詰旦，京口の城は開き，**無忌**は傳詔の服を著，敕使と稱し，前に居る，徒衆は之に隨いて（一）齊に入り，即ち**桓修**を斬りて以て徇（となえ）る。**修**の司馬の**刁弘**は文武佐吏を帥いて來り赴き，**裕**は城に登りて之に謂って曰く、

「**郭江州**（郭昶之）は已に乘輿を奉じて尋陽（時に帝は尋陽にあり）に返正す，我等は並びて密詔を被り，逆黨を誅除せん，今日賊の**玄**之首は已に當に大航に梟梟せらるべし矣。諸君は大晉之臣に非ざる乎？今來たりて何をか為さんと欲するか？」

弘等は之を信じ，衆を收めて而して退く。

■［劉裕は劉穆之を主簿に登用する］**裕**は**無忌**に問いて曰く、

「今急に一府の主簿を須（ま）（須く、必要とする）つ，何に由りて之を得るや？」

無忌は曰く、

「**劉道民**に過ぎるは無し。」

道民なる者，東莞（晉陵の南に東莞郡あり）の**劉穆之**（ぼくし）也。**裕**は曰く、

「吾は亦た之を識る。」

即ち信を馳せて焉を召す。時に**穆之**は京口の歡噪の聲を聞き，晨（つと）（早朝）に起き，陌頭に出，纔（たまたま）信と會す。**穆之**は直視して言はざる者之れ久しく，既に而して室に返り，布裳を壞（やぶ）りて褌（続は袴）と為し，往きて**裕**を見る。**裕**は曰く、

「始めて大義を舉げ，方造艱難（事の初めは大変），一軍吏を須（ま）つこと甚だ急にして，卿は誰か其の選に堪えると謂うか？」

穆之は曰く、

「貴府は始めて建ち，軍吏は實に其の才を須（ま）つ，倉猝之際は，略は當に逾（こ）え見れる者無し。」

裕は笑いて曰く、

「卿が能く自ら屈せば，吾は事は濟らん矣。」

即ち坐に於いて主簿に署す。

■［まず桓弘を斬る］**孟昶**（もうちょう）は**桓弘**に其の日の獵に出るを勸め，天は未だ明けず，開門して獵人を出す。**昶**と**劉毅**、**劉道規**は壯士數十人を帥いて直ちに入り，**弘**は方に粥を啖い，即ち之を斬る。因りて衆を收めて江を濟る。**裕**は**毅**をして**刁弘**を誅さ使む。

■［桓玄は乱を知り、建康の劉邁らを誅す］是より先，**裕**は同謀の**周安穆**を遣わして建康に入りて**劉邁**に報ぜしめ，**邁**は酬許（応酬許可）すと雖も，意は甚だ惶懼す。**安穆**は事洩れるを慮り，乃ち馳せ歸る。**玄**は**邁**を以て竟陵太守と為し，**邁**は亟（すみやか）かに郡に之かんと欲す。是の夜，**玄**は**邁**に書を與えて曰く、

「北府人の情は雲何（いかん）？卿は近く**劉裕**を見るに何の道（い）う所あるや？」

邁は謂(おも)へらく**玄**の已に其の謀あるを知り，晨に起ちて，之を白す。**玄**は大いに驚き，**邁**を封じて重安侯と為す。既に而して**邁**が**安穆**を執らずして，逃げ去るを得ざら使むを嫌い，乃ち之を殺し，悉く**元徳**、**扈興**、**厚之**等を誅す。**(7-081p)**

■［劉裕軍は着々迫る］衆は**劉裕**を推して盟を為し，徐州事を總督せしめ，**孟昶**を以て長史と為し，京口を守り，**檀憑之**を司馬と為す。彭城人の應募者は，**裕**は悉く郡の主簿の**劉鐘**に之を統べ使む。丁巳（２９日），**裕**は二州（兗州・徐州）之衆千七百人を帥いて，竹裡に軍し，檄を遠近に移し，益州刺史の**毛璩**に聲言す、

「已に荊楚を定め，江州刺史の**郭昶之**は**主上**を奉迎して尋陽に返正せり，鎮北參軍の**王元徳**等は帥を並べて部曲は石頭に保據し，揚武將軍の**諸葛長民**は已に歷陽に據る。」

■［桓玄は待機作戦をとる］**玄**は移りて（東宮から）上宮に還り，侍官（侍中以下黄散の属に至るまで）を召し皆な入りて省中に止めしむ。揚州刺史の新安王の**桓謙**に征討都督を加え，**殷仲文**を以て**桓修**に代えて徐、兗二州刺史と為す。**謙**等は亟(すみやか)に兵を遣わして**裕**を撃つを請い，**玄**は曰く、

「彼の兵は鋭きこと甚しく，計(けい)は萬死に出んとす，若し蹉跌有れば，則ち彼の氣は成りて而して吾が事は去らん矣。大衆を覆舟山（建康城の北、舟を覆した形、江蘇省金陵道江寧県、現・南京市江寧区）に屯して以て之を待つに如かず。彼は空しく行くこと二百里，得る所無く，鋭氣は已に挫け，忽ち大軍を見れば，必ず驚愕す。我が按兵は堅陣にして，與に鋒を交える勿かれ，彼は戰いを求めて得ず，自然に散じ走らん，此れは策之上也。」

謙等は固く之を撃つを請い，乃ち頓丘太守の**吳甫之**、右衛將軍の**皇甫敷**を遣わして相い繼ぎて（京口めざして）北上せしむ。**玄**は憂懼すること特に甚し。或は曰く、

「**裕**等は烏合にして微弱，勢いは必らず成る無し，**陛下**は何を慮る之深きや！」

玄は曰く、

「**劉裕**は一世之雄と為るに足り，**劉毅**は家に擔石（小器を名付けて儋石、家貧しの喩え）之儲(たくわ)え無きに，樗蒲の一擲（チョボの一発勝負）百萬なり，**何無忌**は其の舅に酷似す。共に大事を舉げ，何の成る無しを謂うか！」

南涼 後秦［南涼は後秦に称藩］南涼王の**傉檀**は秦之強きを畏れ，乃ち年號（自前の年号・弘昌）を去り，尚書丞郎官を罷め，參軍の**關尚**を遣わして秦に使いせしむ。秦王の**興**は曰く、

「車騎（将軍、興が傉檀を任命）款を獻じて籓を稱す，而るに擅(ほしいまま)に兵を興し大城を造る，豈に臣之道と為す乎？」

尚は曰く、

「王公は險を設けて以て其の國を守るは，先王之制也。車騎は遐籓（遠き籓）に僻在し，勍寇に密邇し，蓋し國家の重門之防ぎと為る，圖らざりき**陛下**は以て嫌(うたがい)を為す忽かれ。」

興は之を善しとす。**傉檀**は涼州を求めんと欲し，**興**は許さず。

■［朱齢石と劉裕、桓溫の因縁］初め，**袁真**は**朱憲**を殺し（102巻太和５年にあり），**憲**の弟の**綽**は逃げて**桓溫**に奔る。**溫**は壽陽に克ち，**綽**は輒ち**真**の棺を發(あば)き，其の屍を戮す。**溫**は怒り，將に之を殺さんとす，**桓沖**は而して之を免かるるを請う。**綽**は**沖**に事(つか)えること父の如く，**沖**は薨じ，**綽**は嘔血して而して卒す。**劉裕**は京口に克ち，**綽**の子の**齢石**を以て建武參軍（劉裕は元建武将軍たり）と為す。

■［劉裕は自ら奮戦して迎撃す］三月，戊午（１日）朔，**裕**の軍と**吳甫之**は江乘に（相）遇す。將に戰わ

んとし，**齢石**は**裕**に言って曰く、(7-082p)
「**齢石**は世々**桓氏**の厚恩を受ける，兵刃を以て相い向うを欲せず，軍の後に在るを乞う。」
裕は義として而して之を許す。**甫之**は，**玄**の驍將也，其の兵は甚だ鋭なり。**裕**は手ずから長刀を執り，大呼して以て之を衝き，衆は皆な披靡（怯え）し，即ち**甫之**を斬り，進みて羅落橋（江乗県の南）に至る。**皇甫敷**は數千人を帥いて逆え戰い，寧遠將軍の**檀憑之**（続、賃之×）は敗死す。**裕**は進みて彌々厲しく戰い，**敷**は之を圍むこと數重，**裕**は大樹に倚りて挺戰（身を挺して独り戦う）す。**敷**は曰く、
「汝は何の死を作さんと欲するか！」
戟を抜きて將に之を刺さんとし，**裕**は目を瞋して之を叱り，**敷**は辟易とす。**裕**の黨は俄に至り，**敷**を射て額に中たりて而して踣れ，**裕**は刀を援りて直ちに進む。**敷**は曰く、
「君は天命有り，子孫を以て托するを為す。」
裕は之を斬り，厚く其の孤（児）を撫す。**裕**は**檀憑之**の領する所の兵を以て參軍の**檀祗**に配す。**祗**は，**憑之**之從子也。
■［桓玄は二將の死を聞いて動揺す］**玄**は二將の死を聞き，大いに懼れ，諸道の術人を召し推算し及び厭勝を為さしむ。群臣に問いて曰く、
「**朕**は其れ敗れん乎？」
吏部郎の**曹靖之**は對えて曰く、
「民は怨み神は怒る，臣は實に懼れる焉。」
玄は曰く、
「民は或いは怨む可し，神は何を為して怒れるか？」
對えて曰く、
「晉氏の宗廟は，江濱に飄泊（晉の宗廟の神位を琅邪から尋陽と遷した事）し，大楚之祭りは，上は祖に及ばす，此れ其の怒る所以也。」
玄は曰く、
「卿は何ぞ諫めずや？」
對えて曰く、
「輦上の君子は皆な**堯**、**舜**之世を以て為すと，臣は何の敢えて言わん！」
玄は默然とする。**桓謙**及び游撃將軍（晉の制の六軍の一）の**何澹之**をして東陵（建康の東、覆舟山の東北）に屯せ使め，侍中、後將軍の**卞范之**を覆舟山の西に屯せしむ，衆は合わせて二萬なり。
■［劉裕は余糧を棄てて奮戰］己未（２日），**裕**の軍の食は罄り，悉く其の餘の糧を棄てて，進みて覆舟山の東に至り，羸弱（弱兵）をして山に登ら使め，旗幟を張りて疑兵を為し，數道から並びて前み，山谷に佈滿す。**玄**の偵候者は還り，云う、
「**裕**の軍は四（方）塞ぎ，多少を知らず。」
玄は益々憂え恐れ，武衛將軍の**庾賾之**を遣わして精卒を帥いて諸軍を副援せしむ。**謙**等の士卒は多くは北府人にして，素より**裕**を畏伏し，鬥志（闘志）有るは莫し。**裕**と**劉毅**等は分けて數隊と為し，進みて**謙**の陳を突く。**裕**は身を以て之に先んじ，將士は皆な殊に死戰し，一の百に當たらざる無し，呼聲は天地を動かす。時に東北の風は急にして，因りて火を縦ちて之を焚き，煙炎は天に慄し，鼓噪之音は京邑を震動し，**謙**等の諸軍は大いに潰ゆ。
■［玄は逃亡して江に浮かぶ］**玄**は時に軍を遣わして**裕**を拒むと雖も，而して走る意は已に決し，潜かに

領軍將軍の**殷仲文**をして舟を石頭に具え使む。**謙**等の敗れるを聞き，親信數千人を帥いて，戰に赴くと聲言し，遂に其の子の**昇**，兄の子の**浚**を將いて南掖門を出る。前相國參軍の**胡籍**に遇い，馬鞚（勒）を執りて諫めて曰く、

「今羽林の射手は猶ほ八百有り，皆な是れ義戰，西人は（続は義故の西人とす）累世之恩を受け，驅りて一戰せ令めずして，一旦此れを捨てれば，安んぞ之かんと欲す乎！」

玄は對えず，但だ策を擧げて天を指し，因りて馬に鞭ちて而して走り，西に石頭に趨き，**仲文**等と江に浮かんで南に走る。經日（翌日まで）食せず，**(7-083p)** 左右は粗飯を進めるも，**玄**は咽下する能わず，**昇**は其の胸を抱きて而して之を撫で，**玄**は悲しんで自ら勝たず。

■［劉裕の建康城入城］**裕**は建康に入り，**王仲德**は**元德**（直前に桓玄に殺される）の子の**方回**を抱きて出でて**裕**を候い，**裕**は馬上に於いて**方回**を抱いて**仲德**と與に對して哭す。**元德**に給事中を追贈し，**仲德**を以て中軍參軍と為す。**裕**は**桓謙**の故營に止まり，**劉鐘**を遣わして東府に據らしむ。庚申（３日），**裕**は石頭城に屯し，留台百官を立て，**桓溫**の神主を宣陽門外にて焚き，晉の新主を造りて（尋陽にあるので、權に作る），太廟に納める。諸將を遣わして**玄**を追わしめ，尚書の**王韺**をして百官を帥いて乘輿を奉迎せしめ，**玄**の宗族の建康に在る者を誅す。**裕**は**臧熹**（劉裕は臧氏に娶る）をして宮に入り，圖書、器物を收めて，府庫を封閉せ使む。金飾樂器有り，**裕**は**熹**に問う、

「卿は此れを慾す無きを得る乎？」

熹は正色して曰く、

「皇上は幽逼し，播越（流浪）して所に非ず，將軍は首として大義を建て，王家に劬勞（労苦）す，復た不肖と雖も，實に樂に情無し。」

裕は笑いて曰く、

「聊か以て卿に戲れる耳。」

熹は，**燾**之弟也。

■［劉裕は朝廷実権掌握］壬戌（５日），**玄**の司徒の**王謐**は衆と議して**裕**を推して揚州を領さしめ，**裕**は固辭し，乃ち**謐**を以て侍中、領司徒、揚州刺史と為し、尚書事を錄さしめ，**謐**は**裕**を推して使持節、都督揚、徐、兗、豫、青、冀、幽、并八州諸軍事、徐州刺史と為し，**劉毅**を青州刺史と為し，**何無忌**を琅邪內史と為し，**孟昶**を丹陽尹と為し，**劉道規**を義昌太守と為す。

【劉裕の統治始まる】

■［劉穆之は綱紀粛正、旬日にて風俗は頓改す］**裕**は始め建康に至り，諸の大處分は皆な**劉穆之**に委ね，倉猝（慌ただしく）にして立ちどころに定まり，允愜（妥当）せざるは無し。**裕**は遂に托するに腹心を以てし，動止は焉に咨る。**穆之**も亦た節を竭くし誠を盡くし，隱を遺わす所無し。時に晉の政は寬馳にして，綱紀は立たず，豪族は陵縱（侮り欲しいまま）にして，小民は窮蹙（窮まり縮まる）し，重ねるに**司馬元顯**の政令を違舛（間違い）を以てす。**桓玄**は厘整（正す）せんと欲すると雖も，而して科條は繁密にして，衆は之に從うは莫し。**穆之**は時宜を斟酌し，方に隨って矯正す。**裕**は身を以て物に範し，先んじて威禁を以てす。內外の百官は皆な肅然として奉職し，旬日に盈たず，風俗は頓改す。

■［諸葛長民の救出］初め，**諸葛長民**は豫州に至り，期を失い，發するを得ず。**刁逵**は**長民**を執り，檻車をもて**桓玄**に送る。當利（浦の名、安徽省安慶道和県、現・馬鞍山市和県）に至りて而して**玄**は敗れ，送人は共に檻を破りて**長民**を出し，還りて歷陽に趣く。**逵**は城を棄てて走り，其の下の執る所と為り，石頭に於いて斬

る，子侄（子や姪）少長と無く皆な死し，唯だ其の季弟（最小の弟）の紿事中の**騁**のみ赦す。**逵**の故吏は其の弟の子の**雍**を匿して洛陽に送り，秦王の**興**は以て**太子**の中庶子と為す。**裕**は**魏詠之**を以て豫州刺史と為し，歴陽に鎮ぜしめ，**諸葛長民**を宣城内史と為す。

■［劉裕の博打の借金を王謐は返す］初め，**裕**の名は微にして位は薄く，輕狡にして行い無し，盛流（貴族や盛んな輩）は皆な與に相い知らず，惟だ**王謐**は獨り之を奇貴とし，**裕**に謂って曰く、

「卿は當に一代の英雄と為らん。」

裕は嘗て**刁逵**と樗蒲し，時に直を輸らず（チョボの負けた金を送らず），**逵**は之を馬柳（馬を繋ぐ柱）に縛す。**謐**は之を見，**逵**を責めて而して之を釋き，之に代わりて直を還す。是に由りて**裕**は深く**逵**を憾み而して**謐**を徳とす。**(7-084p)**

■［私的感情の勝る劉裕を批判］**蕭方等**（梁の元帝の嫡長子、三十國春秋を撰す）は曰く、

「夫れ蛟龍は潜伏し，魚蝦は之に褻る。是を以て**漢高**（漢の高祖）は**雍齒**（11 巻にあり）を赦し，**魏武**（魏の武帝）は**梁鵠**（漢靈帝の撰部尚書）を免じ，安んぞ布衣之嫌を以て而して萬乗之隙を成す可けん也！今**王謐**は公と為り，**刁逵**は族を亡ぼし，恩に酬い怨に報いる，何の其の狹なる哉！」

■［王慧龍の逃亡］尚書左僕射の**王愉**及び子の荊州刺史の**綏**は**裕**を襲わんと謀り，事は洩れ，族は誅し，**綏**の弟の子の**慧龍**（遂に逃げて後秦に走り、更に北魏に入る）は**僧彬**の匿す所と為りて，免かるるを得る。

●魏は中土の蕭條たるを以て，詔して縣の戸の百に滿たざる者は之を罷む。

■丁卯（１０日），**劉裕**は遷（続は還）りて東府に鎮す。

【逃亡中の桓玄は起居注を著述】

■［桓玄は自ら皇帝としての起居注を著述する］**桓玄**は尋陽に至り，**郭昶之**は其の器用、兵力を給す。辛未（１４日），**玄**は**帝**に逼りて西上せしめ，**劉毅**は**何無忌**、**劉道規**等の諸軍を帥いて之を追う。**玄**は龍驤將軍の**何澹之**、前將軍の**郭銓**を留め**郭昶之**と與に湓口を守らしむ。**玄**は道に於いて自ら《起居注》（皇帝の言行記録、生存中に公表されないもの）を作り，**劉裕**を討つ事を敘し，自ら謂うに經略の舉は遺策無し，諸軍は節度に違い，以て奔（続は犇）敗に致ると。專ら思いを著述に覃くし，群下と時事を議するに暇あらずと。《起居注》は既に成り，遠近に宣示す。

■丙戌（２９日），**劉裕**は**帝**の密詔を受けると稱し，武陵王の**遵**を以て製（続は制）を承け百官を總べて行事せしめ，侍中、大將軍を加え，因りて大赦し，惟だ**桓玄**の一族は宥さず。

南燕■［南燕の謀略失敗の劉敬宣は劉裕に走る］**劉敬宣**（南燕に奔るは前巻元興元年にあり）、**高雅之**は青州の大姓及び鮮卑の豪帥と結び，南燕主の**備徳**を殺し，**司馬休之**を推して主と為さんと謀る。**備徳**は**劉軌**を以て司空と為し，甚だ寵して之を信じる。**雅之**は**軌**を邀えて同じく謀らんと欲し，**敬宣**は曰く、

「**劉公**は衰老し，齊を安んずる之志有り，告げる可からざる也。」

雅之は卒に之を告げ，**軌**は從わず。謀は頗る洩れ，**敬宣**等は南に走り，南燕人は**軌**を収めて，之を殺し，**雅之**を追及して，又た之を殺す。**敬宣**、**休之**は淮、泗の間に至り，**桓玄**の敗れるを聞き，遂に來たり歸り，**劉裕**は**敬宣**を以て晉陵太守と為す。

南燕［備徳の南征ならず］南燕主の**備徳**は**桓玄**の敗れるを聞き，北地王の**鐘**等に命じて兵を將いて江南を取らんと欲すも，**備徳**の疾有るに會いて而して止む。

■［建康に武陵王の遵を迎える］**夏，四月**，己丑（２日），武陵王の**遵**は入りて東宮に居り，内外は畢く敬う。百官を遷除し制書を稱し，教えは令書と稱す。**司馬休之**を以て荊、益、梁、寧、秦、雍六州諸軍

事を監せしめ、荊州刺史を領せしむ（予め司馬休之を以て占領軍を編成）。

■［桓玄は江陵に至る］庚寅（３日），**桓玄**は**帝**を挟んで江陵に至り，**桓石康**は之を納れる。**玄**は更に百官を署置し，**卞范之**を以て尚書僕射と為す。自ら奔敗之後なるを以て，威令行わざるを恐れ，乃ち更に刑罰を増峻し，衆は益々離れ怨む。**殷仲文**は諫め，**玄**は怒りて曰く、

「今諸將の律を失い，天文に利あらずを以て，**(7-085P)** 故に還りて舊楚に都す。而るに群小は紛紛として，妄りに異議を興す！方に當に之を糾すに猛を以てすべく，未だ之に施こすに寛を以てす可からざる也。」

荊、江の諸郡は**玄**の播越（流浪）せるを聞き，上表して奔（続は犇）りて起居を問う者有り，**玄**は皆な受けず，更に所在に令して新都に遷るを賀せ令む。

■［王謐の逃亡］初め，**王謐**は**玄**の佐命の元臣為（た）り，**玄**之禪を受けるや，**謐**は手ずから**帝**の璽綬を解く。**玄**が敗れるに及び，衆は**謐**は宜しく誅すべしを謂い，**劉裕**は特に之を保全す。**劉毅**は嘗て朝會に因りて，**謐**に璽綬の在る所を問う。**謐**は内に自ら安ぜず，逃げて曲阿（江蘇省金陵道丹陽県、現・鎮江市丹陽市）に奔る。**裕**は箋して武陵王に白し，迎えて還りて位に復せしむ。

■［楊秋を斬る］**桓玄**の兄の子の**歆**は氐帥の**楊秋**を引いて歷陽を寇し，**魏詠之**は**諸葛長民**、**劉敬宣**、**劉鐘**を帥いて共に撃ちて之を破り，**楊秋**を練固（歷陽の西北、安徽省安慶道和県、現・馬鞍山市和県）に斬る。

■［何澹之と何無忌の尋陽周辺の戦い］**玄**は武衛將軍の**庾稚祖**、江夏太守の**桓道恭**をして數千人を帥いて**何澹之**等に就か使めて共に湓口（湓水入江之處。江西省九江縣西の德化県。湓浦。六朝時戍守重地、現・九江市柴桑区）を守る。**何無忌**、**劉道規**は桑落洲（湓城東北の江上、江西省潯陽道德化県、現・九江市柴桑区）に至り，庚戌（２３日），**澹之**等は舟師を引きて逆え戰う。**澹之**が常に乘る所の舫（方船）は羽儀旗幟甚だ盛んなり，**無忌**は曰く、

「賊帥は必ず此に居らず，我を詐かんと欲する耳，宜しく亟（すみやか）に之を攻むべし。」

衆は曰く、

「**澹之**は其の中に在らず，之を得るとも益無し。」

無忌は曰く、

「今衆寡敵せず，戰いて全勝は無し，**澹之**は既に此の舫に居らず，戰士は必ず弱からん，我は勁兵を以て之を攻めれば，必ず之を得ん。之を得れば，則ち彼の勢いを沮（はば）みて而して我が氣は倍せん，因りて而して之に薄（せま）れば，賊を破るは必ずなり矣。」

道規は曰く、

「善し！」

遂に往きて攻め而して之を得，因りて傳呼して曰く、

「已に**何澹之**を得たり矣」。

澹之の軍中は驚擾す。**無忌之**の衆は亦た以て然りと為し，勝ちに乘りて進みて**澹之**等を攻め，大いに之を破る。**無忌**等は湓口に克ち，進みて尋陽に據り，遣使して宗廟の主祏（木主と石室）を奉送して京師に還す。**劉裕**に都督江州諸軍事を加える。

■［劉裕は胡藩を登用す］桑落之戰いに，**胡藩**の乘る所の艦は官軍の燒く所と為り，**藩**は鎧を全てつけて入水し，潛行すること三十許り步，乃ち岸に登るを得る。時に江陵の路は已に絶ち，乃ち豫章に還る。**劉裕**は素より**藩**の人と為りは忠直と聞き，引きて領軍軍事に參ぜしむ。

■［桓玄は帝を擁して再び東下］**桓玄**は荊州の兵を收集し，曾（すなわ）ち未だ三旬にならずして，衆二萬有り，樓船、器械は甚だ盛んなり。甲寅（２７日），**玄**は復た諸軍を帥い**帝**を挟みて東下し，**苻宏**を以て梁州刺

史を領せしめ，前鋒と為す。又た散騎常侍の**徐放**をして先行せ使め，**劉裕**等を説いて曰く、
「若し能く軍を旋し甲を散じれば，當に之と與に更たに始め，各々位任を授け，分を失はざら令めん。」
■**劉裕**は**諸葛長民**を以て淮北諸軍事を都督し，山陽に鎮ぜしむ。**劉敬宣**を以て江州刺史と為す。

●柔然可汗の**社侖**の從弟の**悦代大那**は**社侖**を殺さんと謀り，克たず，魏に奔る。**(7-086p)**
▲［慕容熙は逍遙宮工事で喝死者大半］燕王の**熙**は龍騰苑に逍遙宮を起こし，房を連らねるは數百，曲光海（大きな湖、小林惠子の言う琵琶湖）を鑿り，盛夏にして，士卒は休息するを得ず，喝死者（熱射病）は大半す。
西涼西涼の世子の**譚**は卒す。

【桓玄は死亡】

■［崢嶸洲の戦いで逃げ腰の桓玄敗走］**劉毅**、**何無忌**、**劉道規**、下邳太守の平昌の**孟懐玉**は衆を帥いて尋陽より西上し，五月，癸酉（１７日），**桓玄**と崢嶸洲（湖北省江漢道武昌県、現・武漢市江夏区）に（遭）遇す。**毅**等の兵は萬人に滿たず，而して**玄**の戰士は數萬，衆は之を憚かり，退きて尋陽に還らんと欲す。**道規**は曰く、
「不可なり！彼は衆にして我は寡なり，強弱は勢いを異にす，今若し畏懦して進まざれば，必ず乘る所と為り，尋陽に至ると雖も，豈に能く自ら固めん！**玄**は名は雄豪を竊むと雖も，内は實に恇怯なり。之に加えるに已に奔敗を經れば，衆には固心無し。機を兩陣に決すれば，將雄なる者が克ち，衆に在らざる也。」
因りて衆を麾いて先ず進む。**毅**等は之に從う。**玄**は常に舸（軽い舟）を舫側に漾わして以て敗走に備え，是に由りて衆は鬥心有るは莫し。**毅**等は風に乘りて火を縱ち，鋭を盡くして先を爭い，**玄**の衆は大いに潰え，輜重を燒きて夜遁る。**郭銓**は**毅**に詣りて降る。**玄**の故將の**劉統**、**馮稚**等の黨四百人を聚めて襲いて尋陽城を破る。**毅**は建威將軍の**劉懐隸**を遣わして討ちて之を平らげる。**懐肅**は，**懐敬**（111 巻隆安三年にあり）之弟也。

■［玄は皇后も置き去りにて西走］**玄**は**帝**を挾んで單舸にして西走し，**永安何皇后**（穆帝の章皇后）及び**王皇后**（帝の皇后）を巴陵に留める。**殷仲文**は時に**玄**の艦に在り，別船を出して散卒を收集せんと求め，因りて**玄**に叛き，二后を奉じて夏口に奔り，遂に建康に還る。

■［桓玄は江陵にて瓦解］己卯（２３日），**玄**は**帝**と江陵に入る。**馮該**は更に下りて戰わ使むるを勸め，**玄**は從わず，漢中に奔りて**桓希**（梁州刺史）に就くを欲し，而して人情は乖沮（乖離阻止）し，號令は行われず。庚辰（２４日），夜中，處分して發せんと欲し，城内は已に亂れ，乃ち親近腹心百餘人と馬に乘りて城を出て西走す。城門に至り，左右は暗中にて**玄**を斫り，中たらず，其の徒は更に相い殺害し，前後交々横たわる。**玄**は僅かに船に至るを得，左右は分散し，惟だ**卞范之**は側に在り。

■［王康產は皇帝の確保］辛巳（２５日），荊州の別駕の**王康產**は**帝**を奉じて南郡の府舍に入り，太守の**王騰之**は文武を帥いて侍衛を為す。

■［桓玄の最後］**玄**は將に漢中に之かんとす。屯騎校尉の**毛修之**は，**璩**之弟の子也，**玄**を誘いて蜀に入り，**玄**は之に從う。寧州刺史の**毛璠**は，**璩**之弟也，官に卒す。**璩**は其の兄の孫の**祐之**及び參軍の**費恬**をして數百人を帥いて，**璠**の喪を送りて江陵に歸ら使め，壬午（２６日），枚回洲（湖北省荊南道江陵県、南の洲、現・荊州市江陵県）に於いて**玄**に（遭）遇す。**祐之**、**恬**は**玄**を迎撃し，矢は下ること雨の如く，**玄**の嬖人の**丁仙期**、**萬盖**等は身を以て**玄**を蔽い，皆な死す。益州督護の漢嘉の**馮遷**は刀を抽きて，前みて**玄**を擊たんと欲し，**玄**は頭上の玉導（冠幘に簪有り、皇帝は玉で作る、導は櫛）を抜き之を與えて，曰く、

「汝は何人ぞ，敢えて**天子**を殺すか！」
遷は曰く、
「我は**天子**之賊を殺す耳！」
遂に之を斬り，又た**桓石康、桓浚、庾疇之を斬り**，**桓昇**を執りて江陵に送り，市に於いて斬る。**(7-087p)**
乗輿は江陵に返正し，**毛修之**を以て驍騎將軍と為す。甲申（２８日），大赦し，諸々の畏逼せらるるを以て逆に従う者は一に問う所無し。戊寅（２２日?），神主を太廟に奉じる。**劉毅**等は**玄**の首を傳送し，大桁に於いて梟す。

【桓振の巻き返しは猛烈】

■［潜伏した桓謙・桓振などが復活す］**毅**等は既に戦勝し，大事は已に定まると以て成し，追躡を急がず。又た風に遇い，船は未だ進む能わず，**玄**が死して幾（ほとんど）と一旬にして，諸軍は猶ほ未だ至らず。時に**桓謙**は沮中（沮水の周囲、臨沮・上黄の二郡）に匿れ，揚武將軍の**桓振**は華容浦（湖北省荊南道監利県、現・荊州市藍利市）に匿れる。**玄**の故將の**王稚徽**は巴陵に戍し，人を遣わして**振**に報じて云う、
「**桓歆**は已に京邑に勝ち，**馮稚**は復た尋陽に克つ，**劉毅**の諸軍は並んで中路に敗退せり。」
振は大いに喜び，黨を聚めて二百人を得，江陵を襲い，**桓謙**も亦た聚めて之に應ず。閏月（元嘉暦六月），己丑（３日），復た江陵を陥（おと）し，**王康產、王騰之**を殺す。**振**は**帝**に行宮に於いて見え，馬を躍らせて戈を奮い，直ちに階下に至り，**桓昇**の所在を問う。其の已に死すを聞き，目を瞋（いから）して**帝**に謂って曰く、
「臣の門戸は何んぞ國家に負（そむ）くや，而るに屠滅すること是くの若し！」
琅邪王の**德文**は下床を下りて謂って曰く、
「此れ豈に我が兄弟の意ならん邪！」
振は**帝**を殺さんと欲し，**謙**は苦（ねんご）ろに之を禁じ，乃ち下馬し，容を斂（あらた）めて拜を致して而して出ず。壬辰（６日），**振**は**玄**の為に哀を擧げ，喪庭を立て，謚して**武悼皇帝**と曰う。
■［桓振が帝の側近として固める］癸巳（７日），**謙**等は群臣を帥いて璽綬を**帝**に奉じて曰く、
「**主上**は**堯**の**舜**に禪るに法（のっと）り，今楚の祚は終わらず，百姓之心は復た晉に歸す矣。」
琅邪の**王德文**を以て徐州刺史を領せしめ，**振**を都督八州諸軍事、荊州刺史と為し，**謙**を復た侍中、衛將軍と為し，江、豫二州刺史を加え，**帝**の侍御の左右は，皆な**振**の心腹也。
■［桓振の人となり］**振**は少きとき薄行なり，**玄**は子姪を以て之を齒（よわい）せず。是に至り，歎じて曰く、
「公は昔早く我を用いず，遂に此の敗に致る。若し公をして在ら使めて，我が前鋒と為れば，天下は定まるに足りざる也。今獨り此れを作（な）すも，安くに歸せん乎？」
遂に意を酒色に縱（ほしいまま）にし，行いを肆（ほしいまま）に誅殺す。**謙**は**振**が兵を引いて下り戰うを勸め，己は江陵を守らんとし，**振**は素より**謙**を輕んじ，其の言に従わず。
■［劉毅は巴陵に至る］**劉毅**は巴陵に至り，**王稚徽**を誅す。**何無忌、劉道規**は進みて**桓謙**を馬頭（湖北省荊南道公安県、揚子江南岸、現・荊州市公安県），**桓蔚**を龍泉（現・荊州市公安県）に攻め，皆な之を破る。**蔚**は，**秘**（103巻隆武帝寧康元年にあり）之子也。
■［桓振は何無忌を靈溪にて破る］**無忌**は勝ちに乗りて直ちに江陵に趣かんと欲し，**道規**は曰く、
「兵法は屈申して時有り，苟しくも進む可からず。諸々の**桓**は世々西楚に居り，群下は皆な為に力を竭くす。**振**の勇は三軍に冠たり，輿に鋒を爭い難し。且（しばら）く兵を息（やす）めて鋭を養い，徐（おもむろ）に計策を以て之を縻（も）（散じる）らす可し，克たざるを憂えず。」

無忌は従わず。**振**は靈溪（湖北省荊南道江陵県、現・荊州市江陵県）に逆え戦い，**馮該**は兵を以て之に會し，**無忌**等は大敗し，死者千餘人。退きて尋陽に還り，**劉毅**等と箋を上りて罪を請う。**劉裕**は**毅**を以て節度諸軍と為し，其の青州刺史を免ず。**桓振**は**桓蔚**を以て雍州刺史と為し，襄陽に鎮ぜしむ。

■［白帝からの諸軍の右往左往］**柳約之**、**羅述**、**甄季之**は**桓玄**の死を聞き，（7-088p）白帝より進軍し，枝江（湖北省荊南道枝江県、現・宜昌市枝江市）に至り，**何無忌**等の靈溪に敗れるを聞き，亦た兵を引いて退き，俄に而して**述**、**季之**は皆な病み，**約之**は**桓振**に詣りて偽りに降り，**振**を襲うを謀らんと欲し，事は洩れ，**振**は之を殺す。**約之**の司馬の**時延祖**、涪陵太守の**文處茂**は其の餘衆を収めて，涪陵を保つ。

■六月（元嘉暦七月），**毛璩**は將を遣わして漢中を攻め，**桓希**を斬り，**璩**は自ら梁州を領す。

■秋，七月（元嘉暦八月），戊申（２３日），**永安皇后何氏**崩ず。

▲燕の**苻昭儀**は疾有り，龍城人の**王榮**は自ら之を能く療すと言う。**昭儀**は卒す，燕王の**熙**は**榮**を公車門に立て，支解して而して之を焚く。

■八月（元嘉暦九月），癸酉（１９日），**穆章皇后**を永平陵に葬す。

●魏は六謁官を置き，古の六卿に准じる。

■九月（元嘉暦九月閏月），**刁騁**は謀反し，伏して誅せられ，**刁氏**は遂に亡ぶ。**刁氏**は素より富み，奴客は縦横し，専ら山澤を固め，京口之患いと為る。**劉裕**は其の資蓄を散じ，民をして力に稱いて而して之を取ら令め，日を彌りて盡きず。時に州郡は饑弊し，民は之に賴りて以て濟われる。

南涼**乞伏乾歸**及び**楊盛**は竹嶺（上邽の西南、甘肅省渭川道天水県、現・天水市）に於いて戦い，**盛**の敗る所と為る。

西涼西涼公の**暠**は子の**歆**を立てて世子と為す。

●［魏の百官の制度確立］魏主の**珪**は昭陽殿に臨みて改めて百官を補し，朝臣文武を引き，親ら銓擇を加え，才に隨いて任を授ける。列爵は四等、王は大郡に封じ，公は小郡に封じ，侯は大縣に封じ，伯は小縣に封じる。其の品第一より第四に至る，舊臣の功有る無爵の者に之に追封し，宗室疏遠及び異姓の襲封者は爵を降して差有り。又た散官五等を置き，其の品第五より第九に至る。文官造士（続は衍であろうとする?）の才能の秀異なる、武官の將帥と為るに堪える者は，其の品亦た第五より第九に至るに比す。百官に闕有るときは，則ち其の中に於いて取り以て之を補う。其の官名は多く漢、魏之舊を用いず，上古の龍官、鳥官（昔、大皞氏に龍の瑞あり。龍の官名をつける。春官は青龍、夏官は赤龍。また少皞摯の立つや、鳳鳥適々至り、故に鳥の官名をつける。鳳鳥氏は歴正、玄鳥氏は司分もの、青鳥氏は司啓など）に仿い，諸曹之使いを謂って鳧鴨（かも）と為す，其の飛ぶ之迅疾なるを取る也。候官伺察者を謂って白鷺と為す，其の頸を延ばして遠望するを取る也。餘は皆な此れに類す。

■［盧循は廣州を取る］**盧循**は南海を寇し，番禺を攻める。廣州刺史の濮陽の**吳隱之**は拒み守ること百餘日。冬，十月，壬戌（９日），**循**は夜城を襲い而して之を陷し，府舍、民室を燒き俱に盡き，**吳隱之**を執る。**循**は自ら平南將軍を稱し，廣州事を攝する。燒骨を聚めて共塚を為り，洲上に於いて葬し，髑髏三萬餘枚を得たり。又た**徐道覆**をして始興（呉の孫皓の甘露元年に、桂陽南部都尉を分けて郡を置く）を攻め使め，始興相の**阮腆之**を執る。

■［桓亮の攻撃を撃退］**劉裕**は青州刺史を領す。**劉敬宣**は尋陽に在り，糧を聚め船を繕し，未だ嘗て備え無く，（7-089p）故に**何無忌**等は敗退すると雖も，賴りて以て復た振う。**桓玄**の兄の子の**亮**は自ら江州刺史を稱し，豫章を寇し，**敬宣**は擊ちて之を破る。

■［劉毅、何無忌らは現・武漢にて西軍と激突］**劉毅**、**何無忌**、**劉道規**は復た尋陽より西上し，夏口（旧漢口、現・武漢市の長江・漢江以北（左岸）の江岸区、江漢区、礄口区を漢口と総称）に至る。**桓振**は鎮東將軍の**馮該**を遣わして東岸を守り，揚武將軍の**孟山圖**は魯山城（湖北省江漢道漢陽県、現・武漢市漢陽区）に據り，輔國將軍の**桓仙客**は偃月壘（湖北省江漢道武昌県、現・武漢市武昌区）を守り，衆は合わせて萬人，水陸相い援ける。**毅**は魯山城を攻め，**道規**は偃月壘を攻め，**無忌**は中流を遏め，辰より午に至り，二城は俱に潰ゆ，**山圖**、**仙客**を生きて禽にし，**該**は石城に走る。

●辛巳（２８日），魏は大赦し，改元して天賜とす。西宮を築く。十一月，魏主の**珪**は西宮に如き，宗室に命じて宗師を置き，八國に大師、小師を置き，州郡にも亦た各々師を置き，以て宗黨を辨じ，才行を擧げしむ，魏、晉の中正之職の如し。

▲［燕王の熙の大游畋で凍死者五千］燕王の**熙**は**苻后**と游畋し，北に白鹿山に登り，東に青嶺を逾え，南に滄海に臨み而して還り，士卒は虎狼の殺す所と為り及び凍死する者は五千餘人。

■［劉毅は巴陵に進出］十二月，**劉毅**等は進みて巴陵に克つ。**毅**は號令嚴整にして，過ぐる所の百姓は安悦す。**劉裕**は復た**毅**を以て兗州刺史と為す。**桓振**は**桓放之**を以て益州刺史と為し，西陵に屯せしむ。**文處茂**は擊ちて之を破り，**放之**は走りて江陵に還る。

▲**高句麗**高句麗は燕を侵す。

●戊辰（１６日），魏主の**珪**は豺山宮に如く。

▲［淮北に難民があいつぐ］是の歳，晉民は亂を避け，襁負して淮北に之く者は道路に相い屬く。

令和２年７月29日	完全翻訳開始	10577文字	
令和２年７月31日	完全翻訳終了	20648文字	
令和２年11月13日	微修正	20900文字	現代地名・年表対応
令和３年12月26日	書下し終了	21935文字	